

『新たな防災教育』発信

大学や高校 神戸で発表会 教材など成果紹介

阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ、兵庫から新たな防災教育を発信する取り組みについて報告する会が9日、神戸市中央区の県民会館であり、教育、研究機関がそれぞれの成果を発表した。

(岸本達也)

県教委、神戸市教委など、全国で使える新しい教材、プログラムの開発と5団体が2008年に「防災教育開発機構」を進めてきた。設立。文部科学省の「防災教育支援事業」には江講師は、緊急地震速報



新たな防災教育の取り組みについて報告する関係者ら＝県民会館

が発表されたら、どう行動するかを子どもたちがカードで学べる教材を紹介。「自分で考えて行動できるよう工夫した。即時の対応を体で覚

えてもらう」と特徴を述べた。人と防災未来センターの宇田川真之研究員は、高校生たちが町を歩いて見つけた危険箇所と、行政が作ったハザードマップ(危険箇所)の地図を合体させた地図のネット配信について発表した。

県教委、神戸市教委と神戸市消防局も取り組みを発表した。

障書者が使いやすい教材も報告した。県立舞子高校環境防災科の諏訪清二教諭は「海外の被災地を訪れると、将来どうなるかという不安をよく聞く」と紹介し、「阪神・淡路大震災からの15年の歩みは教科書。経験を伝えることで将来のことが少しは分かっただけ」と強調。若者による震災語り部事業などについて話した。